

世界遺産・白川郷しらかわごう交通社会実験

受賞機関 岐阜県白川村

はじめに

岐阜県北西部の山間に位置する白川村荻町の合掌造り集落は、人が実際に生活をしながらユネスコの世界遺産に登録された希有な地域であるが、この指定を受けて後、白川郷の交通、環境両方の容量を超えた観光交通が押し寄せ、その結果、村民の日常生活が脅かされるような大混雑が発生し、居住環境、農村景観、自然環境の悪化など、世界遺産としての価値をすり減らすような問題が顕在化している。白川郷交通社会実験は、世界遺産にふさわしい観光交通を模索するため、遺産地区への車両進入制限を行い、観光客の行動の変化が観光客及び地域経済にどのような変化をもたらすかを検証し、さらに今後の本格的実施に向けた地域住民の合意形成を得るための実地体験としての役割も担っている。

実験内容

- 世界遺産地区への車両進入制限。
- パークアンドバスライド（無料シャトルバス）、パークアンドサイクル。
- インターネット等を利用した駐車場予約システム。
- 電気自動車の体験乗車。
- 交通量、騒音、渋滞長の計測と、観光客、地元住民へのアンケート調査。

実施時期

平成13年10月6日7日（進入制限＋～）8日（の調査、計測だけ）（三連休）

実験結果の概要と評価

実験期間中のシャトルバス等の利用状況は（表-1）のとおり。

表-1 パークアンドバスライド等利用状況

	進入制限あり		進入制限無し	合計
	10/6(土)	10/7(日)	10/8(月)	
駐車場(一般車)	1100台	1900台	1200台	4200台
駐車場(バス)	140台	230台	140台	510台
シャトルバス	5700人	7500人	-	13200人
電気自動車	310人	340人	-	650人
レンタサイクル	60人	100人	-	160人



歩行者天国になった旧国道沿い



荻町旧国道望遠
（規制中）



荻町旧国道望遠
（規制解除で車であふれている）

実験の評価

- (1) 車両進入制限日の観光客平均滞在時間は約50%アップ(1.5時間から2.2時間)、平均移動距離は10%アップ(約1.3kmから1.4km)した。また、歩行速度は通常時の860m/時から640m/時になり、ゆったりとした散策が行われ、その結果、観光客一人当たりの消費金額は約10%アップした。
- (2) 車両進入制限の実施は観光客の90%以上、村民の70%が本格稼働を望んでいる。
- (3) 代替え移動手段の内、シャトルバスは観光客の集中により一時滞ったが、費用を含めさらなる検討が必要である。
- (4) 駐車場予約システムは予約客が時間を調整する行動が見られ、交通コントロールの可能性がある。

今後の取り組み

今後は実験結果を踏まえ、明らかになった課題を整理するとともに地域住民のさらなる合意形成を高め、交通対策の本格稼働に向けて試行を行っていく。